

17	ウワウルシ	クマコケモモ 英名 Uva Ursi Leaf	葉			<i>Arctostaphylos uva-ursi</i> (L.) Sprengel	Ericaceae ツツジ科	クマコケモモ	局方 Com E	不明		arbutin: TLD0, 13.6g/kg, rat, oral	B	局方収載医薬品であり、ComEにも記載され、BSHに禁忌が記載されている。	
18	ウンカロボ	英名 umkalabo	根			<i>Peltogramma reniforme</i> Curt., <i>P. sidoides</i> DC.	Geranoacea フクロソウ科	ニオイゼラニウム	○ ドイツで医薬品として申請中			申請中のものは 48.5ml/kg	B	ドイツで医薬品として申請中。医薬品を登録したメタアナリシスの文献がある。	
19	エイジツ<黄実>	ノイバラ	果実・樹皮			<i>Rosa multiflora</i> Thunberg	Rosaceae バラ科	ノイバラ	局方	Yes 平成17年度の報告書を参照のこと	不明	LD50 i.p. mouse 127g/kg (root extract)	B	局方収載医薬品であり、本研究により含有率化合物が単離された。	
20	エニシダ<雀巢根>		根・葉			<i>Cytisus scoparius</i> Link	Leguminosae マメ科	エニシダ	○ 硫酸スズルチン について、局方に記載	不明		>1 g/kg i.p. mouse sparteine: i.p. 18 mg/kg mouse	A	側薬であるsparteineを含む。またBSHclass3で要指示薬相当。	
21	エンゴサク<延胡索>	エンゴサク	塊茎			① <i>Corydalis ibirschianowii</i> Besser forma <i>yanhiao</i> Y. H. Chou et C. C. Hsu ② <i>C. ambigua</i> Cham. Et Schlecht.	Papaveraceae ケン科	①エンゴサク ②エニシダ	局方				A	アルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
22	エンジュ<槐花>	カイカ、カイカク	花・花蕾・果実	薬・サヤは「非 産」		<i>Sophora japonica</i> L.	Leguminosae マメ科	エンジュ	局外生現			ruin: LD50 2g/kg (rat ip)	B	アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生現に収載される重要生薬であり、専ら医薬品と考えられる。	
23	オウゴン<黄花仔>		根・葉			① <i>Sida cordifolia</i> L., ② <i>S. mysorensis</i> Wight et Arn.	Malvaceae アオイ科		x 中国民間薬			Extract: LD50 3g/kg (mouse oral)	A	覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
24	オウゴン<黄花母>	キンゴジカ	全草			<i>Sida rhombifolia</i> L.	Malvaceae アオイ科	キンゴジカ	x 中国民間薬				A	覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
25	オウゴン<黄耆>	キバナオウゴン ナイモウオウゴン	根	葉・果は「非 産」		① <i>Astragalus membranaceus</i> Bunge, ② <i>A. mongolicus</i> Bunge	Leguminosae マメ科	①キバナオウゴン ②ナイモウオウゴン	局方			580 mg/kg mouse	B	局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。	
26	オウゴン<黄芩>	コガネバナ、コガネヤナギ	根	葉・果は「非 産」		<i>Scutellaria baicalensis</i> Georgi	Labiales シソ科	コガネバナ、コガネヤナギ	局方				class 1 class 1 (<i>S. lanieri</i> <i>flora</i>)	B	局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
27	オウゴン<黄柏>	キハダ	樹皮	葉・果は「非 産」		① <i>Phellodendron amurense</i> Ruprecht ② <i>P. chinense</i> Schneider	Rutaceae ミカン科	①キハダ ②シナキハダ	局方			Cortex water extract: TDLO 3.360mg/kg (mouse oral)	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
28	オウゴン<椴木>	ヤマザクラ	樹皮			① <i>Prunus jamaekura</i> Siebold ② <i>P. verecunda</i> Koehne	Rosaceae バラ科	①ヤマザクラ ②カスミザクラ	局外生現			同属植物 <i>P. emarginata</i> , wood extract: TDLO 14g/kg (mouse oral)	B	局外生現収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。	

29	オウレン<黄連>	キクバオウレン	根茎・ひげ根	薬は「非医」	① <i>Coptis japonica</i> Makino ② <i>Coptis chinensis</i> Franchet ③ <i>Coptis deltoidea</i> C. Y. Cheng et Hsiao ④ <i>Coptis recta</i> Wallich	Ranunculaceae キンポウゲ科	①オウレン キクバオウレン	局方	berberine, palmatine, jatrorrhizine, coptisine, worenine, magnoflorine		①root extract: LD50 866mg/kg (mouse oral)	②, C. <i>greenlandica</i> Class 2b	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
30	オンダ<輪語>	英名 Male Fern	根茎・葉基		① <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai, ② <i>D. filix-mas</i> (L.) Schott	Aspidiaceae オンダ科	①オンダ ②オンダ	O Com E			190.5 mg/kg ip, 853.7 mg/kg po.	①記載なし ②2a, 2b, 2c, 3	A	Commission Eにおいてオンダは駆虫作用とともに強い細胞毒性を有し、経口摂取による中毒症状も報告されており、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
31	オノニス	英名 Spiny Restharrow root	根・根茎		<i>Ononis spinosa</i> L.	Leguminosae マメ科		O Com E			Ononis 無し		B	Com Eに収載されており、根は食料料がないことから、専ら医薬品としておくことが望ましい。
32	オモト<万年青>	根茎	根茎		<i>Rohdea japonica</i> Roth.	Liliaceae ユリ科	オモト	Yes?	強心配糖体: rhodexin A, rhodexin B and C, rhodexin, rhodeatoxin		rhodexin A: LD50 = 0.106 mg/kg, cat, i.v.		A	毒性の強い強心配糖体: rhodexin A を含む。
33	オンジ<遠志>	イヒメハギ	根		<i>Polygona tenuifolia</i> Willd.	Polygonaceae ヒメハギ科	オンジ (イヒメハギ)	局方 Com E				Class 2d	B	局方および漢方処方に収載されている重鎮生薬である。また、腹痛と胃炎に禁忌があり、同属植物に毒物: podophyllotoxin の含有が知られている。
34	カインク属<海葱>	英名 Squill	鱗茎	カインク(海葱)の全薬は「非医」	<i>Urginea</i> 属。主に <i>U. maritima</i> Baker	Liliaceae ユリ科	カインク	Com E	<i>U. maritima</i> : 強心配糖体: プアジエリド (scillarenin, scilliroside, proscillaridin, glucosillarenin, scilliphaeoxide, glucosilliphaeoxide, glucosilliroside, scillarenin, scillostidin)		scillarenin A: LD50 intravenously in cats 0.142 mg/kg body-weight scilliroside: LD50 orally in male rats 0.7 mg/kg body-weight		A	scilliroside など有毒なプアジエリド (強心配糖体) 数種を含む。
35	カイトウヒ<海桐皮>	樹皮	樹皮		<i>Erythrina variegata</i> L. var. <i>orientalis</i> (L.) Merr. (= <i>E. indica</i> Lam.)	Leguminosae マメ科	ダイゴ	O	erysopine, erythraline, erysodine, erysotrine		erysopine: LD50 = 18 mg/kg (mouse, oral) erythraline: LD50 = 80 mg/kg (mouse, oral) erysodine: LD50 = 155 mg/kg (mouse, oral)	Class 1	A	erythraline など有毒なアルカロイドを含む。
36	カガミクサ<白薇>	根	根		<i>Ampelopsis japonica</i> Makino	Vitaceae ブドウ科	カガミクサ	△					E	わが国では医薬品としては使用実績が乏しく、毒性の強い成分の含有も知られていない。ただし、生薬白薇の基原植物は中国で産出されるため、今回の判断はあくまで植物カガミクサのみに関するものである。
37	カゴクサ<夏枯草>	ウツボクサ	全草		<i>Prunella vulgaris</i> Linne var. <i>ilicinea</i> Nakai	Labiateae シソ科	ウツボクサ	局方				Class 1	B	局方に収載されており、医薬品としての使用実績があるため専ら医薬品としておくことが望ましい。
38	カンシ<訶子>	ミロハラン	果実		<i>Terminalia chebura</i> Retz.	Combretaceae シクンシク科	ミロハラン	局外生規			LD50 = 175 mg/kg (mouse, i.p.)	Class 2d	B	局外生規収載で、漢方処方に配合されており、医薬品としての使用実績がある。また、経下作用のある sennoside A を含有している。
39	カンエウ<何首烏>	ツルトクダミ	塊根	茎・薬は「非医」	<i>Polygonum multiflorum</i> Thunb.	Polygonaceae タデ科	ツルトクダミ	局方	根にアントラキノン類のグリコシアール、エモジン、レインを含む			Class 2d	A	局方に収載されているのみで医薬品としての使用実績があり、脚氣相当のエモジンを含む。
40	カスカラカグラダ	英名 Cascara sagrada bark	樹皮		<i>Rhamnus purshiana</i> DC	Rhamnaceae クロウメモドキ科	カスカラカグラダ (Cascara Sagrada)	Com E, EP			Rhamnus 無し	Class 2b, 2c, 2d	A	ヨーロッパで医薬品として使用されており、経下作用を持つ anthrone 誘体 95% 以上を含有している。

41	カニコウワ<藿香> カニコウワ<菘根>	カワミドリ、パチヨリ ①英名 patchouly ②英名 agastache	地上部			① <i> Pogostemon cablin </i> Bentham ② <i> Agastache rugosa </i> (Fish. et Mey.) O. Kuntze	Labiatae シソ科	②カワミドリ	①局外生規 ②?	① Sesquiterpene alkaloids: pachoulipyridine, guaiipyridine (=epiguaiipyridine)		①oil: LD50 > 5g/kg (rat, oral)	①② Class 1	B	局外生規に取載され、また、漢方処方に対応されるなど、わが国で医薬品としての使用実績がある。また、アルカロイドも含むため他の医薬品としておくれべきである。カワミドリは局外生規におけるカニコウワではないので、別項とすべきである。
42	カニコウワ<菘根>	グズ	根	種子・葉・花・ グズ(粉)は 「非医」		<i> Pueraria lobata </i> (Willd.) Ohwi	Leguminosae マメ科	グズ	局方				Class 1	B	局方取載の重要生薬であり、専ら医薬品としておくれべきである。
43	カバ	カバカバ、カワカワ、 ジャカオ 英名: kava, kavava, kava kava, sakau	全草			<i> Piper methysticum </i> Forst. F.	Piperaceae コショウ科	カバ、カバカバ、 カワカワ、シヤカ オ	× Com E	ビベリンアルカロイド (pipermethystine)	kavalactones (desmethoxy yangonin, yangonin, dihydrokawa in, kawain, dihydrometh ystin, methysticin)		Class 2b; 2c, 2d	A	向精神作用を持つ kavalactones を含む。
44	カラハル豆	英名 Calabar bean	豆			<i> Physostigma venenosum </i> Baillou	Leguminosae マメ科		○	アルカロイド約0.5%を含む physostigmine (= eserine) を 主成分とする。		Physostigmine LD50: 7.1 µg/kg - 20 mg/kg	A	A	毒性の強い physostigmine を含む。
45	カニコウワ<菘根>	①オオカラスウリ ②キカラスウリ ③シナカラスウリ	根	果実・種子は 「非医」		① <i> Trichosanthes bracteata </i> Voigt ② <i> T. kirilowii </i> Maxim. var. japonicum Kitamura ③ <i> T. kirilowii </i> Maxim.	Cucurbitaceae ウリ科	①オオカラスウリ ②キカラスウリ ③シナカラスウリ	①②③局方	③ Trichosanthin		Trichosanthin LD50 = 5.9 mg/kg (mouse, subcutaneous)	Class 1	A	毒性タンパク質である trichosanthin を含む。
46	カニコウワ<菘根>	英名 Yellow Jessamine	全草			① <i> Gelsemium </i> <i> sempervirens </i> Aiton ② <i> G. elegans </i> Benth.	Loganiaceae ①マチン科 ②フジツクシ科	①カロライナジャ ズミン、ガルゼミウ ②コウワン	①Com E	ゲゼルミン等 gelsemine, gelsemine, sempervivine indole alkaloid 含有		oral child LDLo 7.4 mg/kg ② 25mg/kg i.p. mouse	A	A	有毒アルカロイドを含む。
47	カララタケ		菌糸体	干実体は「非 医」		<i> Cortolus versicolor </i> (Fr.) Quel	Polyporaceae カララタケ科		○					B	免疫調節剤 クレスチン の産生菌糸体である。
48	カンショウコウ <甘松香>	英名 jatamansi, nard, spikenard	根			① <i> Nardostachys jatamansi </i> DC. ② <i> N. chinensis </i> Baslin	Valerianaceae オミナエシ科	カンショウコウ	×			essential oil i.p. LD50 900mg/kg , mouse. i.v. dog. LD50: 93mg/kg (劇薬相当); extract i.p. rat LD50: 355mg/kg	Class 2b	A	精油の毒性が劇薬相当。
49	カニコウワ<菘根>	フキダンボが 英名 Coltsfoot leaf	花蕾	葉・幼若花蕾 は「非医」		<i> Tusilago farfara </i> L.	Compositae キク科	カントウ、フキダン ボが、アアルアラ	Com E	Senkirkine/Tusilagine (pyrrolizidine alkaloid) necine (pyrrolizidine alkaloid) tumorigenic; tumorigenic data intraoperative rat, TDLo 300mg/kg		oral, rat TDLo 4800µg/kg	Class 2b, 2c, 2d	A	随機形成作用をもつ有毒アルカロイド senkirkine を 含む。Commission E 及び BSH での記載に疑義が ある。
50	カンボウイ<粉防己>	シマハスノハゴズ	茎・根茎			<i> Stephania tetrandra </i> S. Moore	Menispermaceae ツツラン科	シマハスノハゴズ	×	tetrandrin LD50 41.3 mg/kg i.p. mouse		i.p. mouse LD50 113mg/kg	Class 1	A	劇薬 tetrandrin を含むこと及び、 aristolochic acid を 含む Aristolochia 属の生薬との取り違えが疑われる可 能性がある。名称カンボウイは、基原に混乱を生 じることがあり、シマノハゴズを名称とすべき。
51	カンラン<椒藍>	英名 white Chinese olive	果実			<i> Canarium album </i> (Lour.) Raeusch.	Burseraceae カンラン科	カンラン	×			<i> Canarium maritii </i> <i> C. bengalense </i> ; i.p. mouse 1g/kg 以上	Class 1	E	に、果実とも食の薬材があること及び、同属植物 の LD50 値より、食薬区分の見直しの対象とすると 考えられる。

65	ゲンゴンシ薬種子>	アサガオ	種子	葉・花は「非 医」	<i>Pharbitis nil</i> Choisy	Convolvaceae ヒルガオ科	アサガオ	局方			急性毒性データ無し	A	樹脂配糖体の pharbitin は峻下作用があり、安全性に 充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えら れる。
66	ガンジン<玄参>	ゴマノハグサ	根	葉・花は「非 医」	① <i>Scrophularia ningpoensis</i> Hemsl. ② <i>S. buergeriana</i> Miq.	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	① スクロフリアリ ニシキエンシス ② ゴマノハグサ	局外生規			① root, ethyl acetate extract: TDL0 75mg/kg (mouse oral)	B	局外生規に記載され、漢方処方にも配合されてい ることから専ら医薬品と考えられる。
67	ガンチアナ	英名 gentian, gentian root	根・根茎	花は「非医」	<i>Gentiana lutea</i> L.	Gentianaceae リンドウ科	ガンチアナ	局方 Com E			swertiamarin: LD50 > 1g/kg (mouse oral)	B	局方に記載されており、ヨーロッパ等においても医 薬品としての使用実態があるため専ら医薬品と考 えられる。
68	ガンシヨウゴ		地上部		<i>Geranium thunbergii</i> Siebold et Zucc.	Geraniaceae フクロソウ科	ガンシヨウゴ	局方			extract: oral LD50 10 g/kg以上, mouse, rat	B	局方に記載される代表的な民間薬であり、専ら医 薬品と考えられる。
69	コウブシ<香附子>	サソウ、ハマスガ	根茎		<i>Cyperus rotundus</i> L.	Cyperaceae カヤツリグサ科	ハマスガ	局方			extract: i.p. LD50 50 mg/kg, rat	A	エキスが劇薬相当であることから安全性に充分な配 慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
70	コウフン<钩吻>	コマントウ	全草		<i>Gelsemium elegans</i> Benth.	Loganiaceae マチン科	コマントウ	局方 x (中国では根 及び根皮を 薬用)			extract: i.p. LD50 25 mg/kg, mouse	A	有蒸アルカロイドを多数含み、安全性に充分な配 慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
71	コウボク<厚朴>	ホウノキ	樹皮		① <i>Magnolia obovata</i> Thunb. ② <i>M. officinalis</i> Rehd et Wilson ③ <i>M. officinalis</i> Rehd et Wilson var. <i>biloba</i> Rehd et Wilson	Magnoliaceae モクレン科	① ホウノキ ② カラホオ、シナ ホウノキ	局方			coryuberine: i. p. LD50 19.6 mg/kg, mouse	A	ベンジルイソキノリンアルカロイドを多数含み、安 全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考 えられる。
72	コウホン<藟本>		根・根茎		① <i>Lignosium sinense</i> Oliv. ② <i>L. jeholense</i> Nakai et Kitag.	Umbelliferae セリ科	① コウホン ② ムレイセンキョ ウ	局外生規			① root extract: LD50 42.5 mg/kg (mouse ip)	A	エキスを劇薬相当の毒性があり、安全性に充分な 配慮が必要であるため専ら医薬品と考えられる。
73	コオウレン<胡黄连>		茎・根茎		① <i>Picrohiza kirrooa</i> Royle ex Benth. ② <i>P. scrophulariiflora</i> Pennell	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	① コオウレン	局外生規 x			extract: oral LD50 1288 mg/kg, mouse	E	日本において医薬品としての使用実態はなく、エ キスのLD50値を考慮すれば食薬区分の見直し対 象となり得ると考えられる。
74	ゴールデンシール	カナダヒトラスチス 英名 goldenseal	根茎		<i>Hydrastis canadensis</i> L.	Ranunculaceae キンポウゲ科	ヒトラスチス	x USP Dietary supplement, American Herbal Phar macopoeia に 記載			hydrastinine: i. p. LD50 100 mg/kg, rat	A	劇薬相当の hydrastinine を含有することから安全性 に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えら れる。
75	コケモモヨウ<越橘>	コケモモ	葉	果実は「非 医」	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	Ericaceae ツツジ科	コケモモ	x 民間薬			arbutin: TLD0 13.6 g/kg (rat oral)	D	安全性に関するデータが認められないため、現在 のところ判断データがないと考えられる。
76	ゴジツ<牻牛苗>	イノズチ、ヒナタイ ノコズチ	根		① <i>Achyranthes fauriei</i> Leveille et Yaniot ② <i>A. bidentata</i> Blume	Amaranthaceae ヒユ科	① ヒナタイノコズ チ	局方			② Extract LD50 = 147 g/kg mouse, oral inokosterone, LD50 > 9g/kg (mouse, oral)	B	局方収載薬であるため専ら医薬品としておこ とが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が 強いわけではない。構造不明のアルカロイドを含 むが、含量が低く、また粗抽出物の毒性が低い。

87	サイコ<紫胡>	根	薬は「非医」	<i>Bupleiurum falcatum</i> L.	Umbelliferae セリ科	ミシマサイコ (カマガササイコ)	局方			Crude saikosides: LD50 = 4700 mg/kg (mouse, oral). LD50 = 1114 mg/kg (mouse, intraperitoneal). Extract: LD50 = 50 mg/kg (rat, intraperitoneal)	Class I	A	局方収載であり、主要な成分が効用に使用されるなど、我が国で医薬品として採用されている。また、抽出物が調剤相当の毒性を示すとのデータが発表されている。したがって、専ら医薬品としておくべきである。
88	サイシン<御辛>	根・根茎	薬・薬は「非医」	① <i>Asiasarum sieboldii</i> F. Maekawa ② <i>A. heterotropoides</i> F. Maekawa var. <i>mandshuricum</i> F. Maekawa	Aristolochiaceae ウラボシ科	①ウスバサイシン ②ケリンサイシン	局方	higenamine (LD50 = 3350 mg/kg, mouse, oral)			A	A	局方に記載されており、我が国で常用される重要な医薬品であること、アルカロイドhigenamineを含有していること、地上部に毒性の強いアリストロキア酸を含有していることから、専ら医薬品としておくべきである。
89	サビナ<良材>	枝葉・球果		<i>Juniperus sabina</i> L. (= <i>Sabina vulgaris</i> Antoine)	Cupressaceae ヒノキ科	サビナビヤクサン	○	podophyloxin類縁体である todaquinoline, deoxytodaquinoline, β-peltatin A methyl ether			A	A	調剤相当のpodophyloxinの類縁体を含む。
90	サヨウ<積郎>	全草		<i>Cynomorium coccineum</i> L.	Cynomoriaceae オンシヤクシタケ科 キノモリア科	オンシヤクシタケ	× CP収載			LD50 = 9400 mg/kg (mouse, oral). TDLo = 2820 mg/kg (rat, oral)		E	国内においては医薬品としての使用実態がなく、また毒性も低い。
91	サルカクマカン	莖		<i>Toddalia asiatica</i> Lam.	Rutaceae ミカン科		×	berberine, todaquinoline, benzo(c)phenanthridine alkaloids, 4 known quinoline alkaloids		i.p. mouse > 1g/kg berberine sulfate trihydrate i.p. mice 24.3 mg/kg (merck). RTECS berberine HCl 2H2O, LD50: i.p. rat 138 mg/kg 他		A	毒性が高いと考えられるアルカロイドが多数入っている。
92	サルサ	根	薬は「非医」	① <i>Smilax aristolochiaefolia</i> , <i>S. regelii</i> , <i>S. febrifuga</i> 等 ② <i>Smilax china</i>	Smilacaceae サルトリイバラ科 or ユリ科、 Liliaceae	生薬サンキライ (<i>S. glabra</i>)は局方には和名ないが、難波和漢薬監製にはケナシサルトリイバラとある	局方 Com E			<i>Smilax zeylanica</i> : i.p. mouse LD50 825 mg/kg; <i>S. wightii</i> , i.p. mouse LD50 > 1g/kg. <i>S. proflifera</i> : i.p. mouse LD50 > 1g/kg. <i>S. parviflora</i> , i.p. rat LD50 > 1g/kg. <i>S. menispermoides</i> : i.p. rat LD50 1g/kg. <i>S. glaucophylla</i> i.p. mouse LD50 1g/kg		E	サンキライを除いて、我が国では医薬品としての実態がなく、また、ルードピア等の飲料にも用いられており、通常の摂取量では、安全性と特に関与があるとは考えられない。なお、アルブとびのサルサハバラでは植物が特定できます、産品を根づくで、判断の範囲を <i>Smilax glabra</i> 以外の <i>Smilax</i> 属とするのが適切である。
93	サワキキヨウ	全草		<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	Campanulaceae キキョウ科		×	The total alkaloid content of <i>L. sessilifolia</i> L. is 0.135%. Lobeline (?), <i>Lobelia inflata</i> は研究されているがサワキキヨウは不明、アルカロイド含有の可能性高い。		<i>L. pyramidalis</i> での i.p. mouse LD50は 2b, 2d 750mg/kg	<i>L. inflata</i> は 2b, 2d	A	アルカロイド含有量が高く、neurotoxicなlobellineが入っている可能性が高い。
94	サンキライ<山綿菜>	塊茎、根茎	薬は「非医」	<i>Smilax glabra</i> Roxburgh	Liliaceae ユリ科	ケナシサルトリイバラ、 サンキライ	局方			<i>Smilax zeylanica</i> : i.p. mouse LD50 825 mg/kg. <i>S. wightii</i> , i.p. mouse LD50 > 1g/kg. <i>S. proflifera</i> : i.p. mouse LD50 > 1g/kg. <i>S. parviflora</i> , i.p. rat LD50 1g/kg. <i>S. menispermoides</i> : i.p. rat LD50 1g/kg. <i>S. glaucophylla</i> i.p. mouse LD50 1g/kg		B	医療用重要な局方生薬である。

95	サンシヨウコン <酸漿根>	ホオズキ 英名 Chinese lantern, Chinese ground-cherry, ground cherry	根	食用ホオズキの果実(「非医」)	偽薬根は <i>Physalis sp.</i> の根 <i>Physalis alkekengi</i> L. var. <i>franchetii</i> (Masters) Hort. Form Bunyarduu, Mak. (<i>P. Franchetii</i> , Mast.)	Solanaceae ナス科	生薬名 酸漿根、 群呂根 右漢字根ではセ ンナリホオズキ (<i>P. angulata</i> L.) の全草	民間薬	The total alkaloid content varied 0.02-0.25% tigloidine(3%) 3a-tigloyloxytropine (33%) and cuscohygrine(20%)	変異原性のみ RTCS phytolatin X, LD50, oral mouse, >2g/kg	A	<i>P. alkekengi</i> でアルカロイドが一定量入っていることが知られており、また民間薬としての使い方を考えると流石の危険性がある。
96	サンズコン<山豆根>		根・根茎	薬は「非医」	<i>Sophora subprostrata</i> Chun et T. Chen <i>Euclestia japonica</i> Hook f. ex Regel (ニヤマトベツ)や <i>Menispermum dauricum</i> DCを山豆根とする場合もある。	Leguminosae マメ科	局外生規	matrine, oxymatrine, anagyrrine, など matrine のLD50 i.p. rat 125mg/kg, mouse 150mg/kg, oxymatrine LD50 i.p. mouse 521mg/kg, anagyrrine Reproductive Effector, T45 cattle TLD0 816mg/kg	変異原性 <i>Salmoneella</i> <i>Ophthalmurium</i> +S9 5mg/plate Mutation Res 97	A	落性アルカロイドmatrine, oxymatrineが含まれており、また局外生規に収載されている。	
97	ジヨウ<他黄>	①アカヤジヨウ ②カイイジヨウ 英名 rehmannia, Chinese foxglove	莖、根		① <i>Rehmannia glutinosa</i> Libosch. var. <i>purpurea</i> Makino; ② <i>Rehmannia glutinosa</i> var. <i>huetchingensis</i> Chao et Shih)	Scrophulariaceae ゴマノハソサ科	①アカヤジヨウ ②カイイジヨウ	局方	Mutagenとしてのデータのみ 小鼠テスト mouse 2g/kg	<i>R. glutinosa</i> <i>Stend</i> 2d	B	局方に収載されており、多岐の処方に使用される重要な医薬品である。
98	シオン<紫菀>		根、および根茎		<i>Aster tataricus</i> L. fil.	Compositae キク科	シオン	局外生規	<i>A. abscessis</i> extract 62mg/kg i.p. mouse	<i>A. abscessis</i> extract 62mg/kg i.p. mouse	A	抗腫瘍活性を持つcyclic peptideを含む。また、同属植物で劇薬相当の毒性をもつ種が知られている。
99	ジキタリス		葉		<i>Digitalis purpurea</i> L.	Scrophulariaceae ゴマノハソサ科	ジキタリス	(14局まで局方に収載されているが、国内での承認薬の使用実態が全く14局第二追補で(削除)	人男性 i.v. TDL0 12mg/kg LD10, 投与方法不明 290mg/kg (leaf); i.v. guinea pig LD10 1.416mg/kg; oral mouse LD10 2857 mg/kg (leaf extract)	Class 3	A	強い毒性を持つ強心配糖体digitoxinを含む。なお、同様に強心配糖体を含むケジキタリス (<i>D. lanata</i> Ehrh.) が区分に含まれるように、ジキタリス類に名称を統一すべきと考えられる。
100	シキミ<楮>	ハナノキ 英名 Japanese star anise	実		<i>Illicium anisatum</i> L. (= <i>Illicium religiosum</i> Sieb. et Zucc.)	Illiciaceae シキミ科または Lauraceae クスノキ科 Magnoliaceaeとい う筈もあり	シキミ 和名別名ハナノ キ		<i>I. anisatum</i> L. fruit extract: LD50 660mg/kg subcutaneous mouse, mouse i.v. 425mg/kg	<i>I. verum</i> は Class 1	A	猛毒であるanisatinを含む。
101	ジコツビ<地骨皮>	クコ	根皮	果実・薬は「非医」	<i>Lycium chinense</i> Miller	Solanaceae ナス科	クコ	局方第二追補収載	i.p. mouse LD50 >1g/kg	Class 2b	A	ACE阻害活性を持つ降圧作用ペプトンを含む。また、局方に収載されている重要生薬である。
102	シコク<紫根>	ムラサキ	根		<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Sieb. et Zuccatini	Boraginaceae ムラサキ科	ムラサキ	局方	oral mouse LD50 >10g/kg, i.p. mouse 40mg/kg <i>L. callosum</i> alkaloid extract rat oral LD50 90mg/kg, oral mouse 20mg/kg	<i>Alkanna tinctoria</i> は Class 2c	B	局方収載の重要な生薬である。

103	シヅクシヤ<疾藜子>	ハマビシ 英名cantrop	果実			<i>Tribulus terrestris</i> L.	Zygophyllaceae ハマビシ科	ハマビシ	高方14局第 二追加記載	Alkaloids and other constituents from <i>Tribulus terrestris</i> : terrestribisamide, 25R- Spirost-4-en-3,12-dione, and tribulasterine, together with other known compds., N-p-coumaroyltyramine, terrestribamide, hecogenin, aurantiamide acetate, xanthosine, ferulic acid, vanillin, p-hydroxybenzoic acid, and β -sitosterol	(部位不明, extract) 56.4mg/kg i.p. rat; Reproductive effect (leaf cantrop), goat and sheep, oral TDLO 111g/kg	A	β-カルボリンアルカロイドを含有し、植物の部位不明であるが、劇薬相当の毒性データがある。
104	シテイ<桐落>	カキ(柿)	果実の宿存した が<(へタ)			<i>Diospyros kaki</i> Thunberg	Ebenaceae カキ科	カキ	局外生規		i.p. mouse 681mg/kg	E	毒性データ、含有成分の両者から考えて安全性に問題はないと判断するが、積極的に食品として使用されているわけではない。
105	シヤクヤク<芍薬>		根	花は「非医」		<i>Paeonia lactiflora</i> Pallas	Paeoniaceae ボタン科	シヤクヤク	局方		i.p. rat 700mg/kg, i.p. mouse 795mg/kg (root extract)	B	局方に記載され、また多岐の処方で使用される重要な医薬品である。
106	ジャクヤク<蛇床>	オカゼリ オカブゾミ	果実、葉、葉	果実はジャ クヤクともい う		<i>Cnidium monnieri</i> (L.) Cusson	Umbelliferae セリ科	オカゼリ、ジャク ヤク	局方		osthol. LD50 2905 mg/kg (rat oral)	B	アルカロイド等は含有していないが、局方四載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品としておくことが望ましい。
107	シユクシヤ<箱砂>	クヌギ	種子の塊、成熟 果実	シヤクシヤ(沙 参)の根は 「非医」		<i>Amomum xanthioides</i> Wall.	Zingiberaceae シヨウガ科	アモムム、キサン ティオイデス	局方			B	アルカロイド等は含有していないが、局方四載生薬で多岐の漢方処方にも使用されている重要な生薬である。
108	シヨクヤク <益母根>	クヌギ	根茎	浴用精製造 原料		① <i>Aconitum napellus</i> L. var. <i>anaclitum</i> Pers. ② <i>Aconitum gramineum</i> Sol.	Araceae サトイモ科	①シヨクヤク ②エキシヨク	○中国新典取 載		エキスLD50 777mg/kg (rat, oral)	A	医薬品としての使用実績が乏しいが、動物実験において毒が急性性が報告されているβ-asaroneを含有する専ら医薬品とすべきである。
109	シヨクヤク シヨクヤク	クヌギ	樹皮			① <i>Quercus acutissima</i> Cruthers ② <i>Q. variabilis</i> Blume ③ <i>Q. Mongolica</i> Fischer ex Turczaninow var. ④ <i>Q. serrata</i> Murray	Fagaceae ブナ科	①クヌギ ②アベマキ ③クヌナラ ④クヌナラ	①②③④ 局外生規			B	アルカロイド等は含有していないが、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており、Botanical Safety Handbook においても様々な禁忌が報告されているため専ら医薬品とすることが望ましい。また、部位を考慮すると他名等にボツクを記載する必要が有ると考えられる。
110	シヨクヤク<升麻>	クヌギ	根茎	アコシヨクヤク (<i>Cirsium dipsacolepis</i>) の根は「非 医」		① <i>Cimicifuga simplex</i> Wormskjöld ② <i>C. foenicula</i> L. ③ <i>C. heracleifolia</i> Komar. ④ <i>C. dahurica</i> (Turcz.) Maximowicz	Ranunculaceae キンボク科	①サラシナシヨクヤク (ヤサシシヨクヤク) ②ウラシシヨクヤク ③オホシシヨクヤク ④アブキシヨクヤク	①②③④ 局外生規		②エキス:LD50 1 g/kg (rat, ip) ③エキスLD50 >2500 mg/kg (mouse, oral)	A	アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
111	シヨクヤク<商陸>	クヌギ	根	ヤマゴボク (<i>Cirsium dipsacolepis</i>) の根は「非 医」		① <i>Phytolacca esculenta</i> Van Houtte ② <i>P. acinosa</i> Roxb. ③ <i>P. insularis</i> Nak.	Phytolaccaceae ヤマゴボク科	①ヤマゴボク (イヌゴボク) ②クダシヤマゴボク ③ヤマゴボク	①CP記載 x ②CP記載		phytoracosside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv). phytoracosside E: 466 mg/kg (mouse, ip)	A	毒性の強い phytoracosside Bを含有するため専ら医薬品と考えられる。

123	セキソウ科<石蒜> セキソウ科 <石蒜根>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	鱗茎	<i>Lycoris radiata</i> Herb.	Amaryllidaceae ヒガンバナ科	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	○	Amaryllidaceae alkaloids (hippeastrine, lycorenine, lycoridine, lycorine, pretazettine, homolycorine, lycoramine, tazettine, galanthamine) を含む、有 毒。吐き気を催す。	lycorenine (LD50 = 765 mg/kg bw, mouse, oral) lycorine (LD50 = 10.7 g/kg bw, mouse, oral; 145 mg/kg bw, mouse, subcutaneous) pretazettine (LD50 = 47 mg/kg bw, rat, i.v.) lycoramine (LD20 = 1.01 mg/kg bw, rat, i.p.) tazettine (LD50 = 320 mg/kg bw, mouse, i.p.) galanthamine (LD50 of hydrobromide = 18.7 mg/kg bw, mouse, oral; LD50 = 10 mg/kg bw, mouse, i.p.)	Class 2b, 3	A	各属は低いものの、毒葉相当のlycoramine, galanthamineやその他のヒガンバナアルカロイドを 含む。
123	セキソウ科 <石蒜根>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	根茎	<i>Acorus gramineus</i> Solander	Araceae サトイモ科	セキソウ	局外生規		Extract: LD50 = 540 g/kg bw (mouse, oral).	Class 2b, 3	A	局外生規に記載され、日本では医薬品として登録 されている。また、カナダでは食品への使用を認 めていない。
124	セキソウ科 <石蒜根>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	葉	① <i>Rhododendron</i> <i>metternichii</i> Sieb. et Zucc. var. <i>hondoense</i> Nakai ② <i>R. degranianum</i> Carr. ③ <i>Pholidia serrulata</i> Lindl.	①Ericaceae ツツジ科 ②Rosaceae バラ科	①シキナガ ②アスマンヤクナ ガ ③オオカナメモチ	○	①②grayanotoxin I grayanotoxin Iは殺菌性の有 毒成分で、中毒症では麻 心、嘔吐、痙攣、手足の麻 痺、呼吸困難などが起り、 心臓状態に陥り死に至る。 服用量に注意を要する。	①②KTCS未収録、同属で最も 低いのはExt. of <i>R. thomsonii</i> : LD50 = 56.2 mg/kg bw (mouse, i.p.) grayanotoxin I (LD50 = 1.31 mg/kg bw, mouse, i.p.) ③KTCS未収録、同属で最も低 い <i>P. serratifolia</i> が LD50 = 464 mg/kg bw (mouse, i.p.)		A	石南葉として使用される植物種のうち2種に毒性 の強い 'grayanotoxin I' の含有が知られている。
125	セキソウ科<石蒜>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	茎	<i>Dendrobium</i> 属など	Orchidaceae ラン科	コウキセッコク、 セッコク、 サカサセッコク、 ホシセッコク、 キバナセッコクな ど	○ CP2005収録	セッコク属の成分としてセス キアルベンアルカロイドの dendrobine (0.33~0.5%)、 dendramine, nobilin (=nobilonine)、 dendroxine, dendrine, 6-hydroxydendroxine, N-methyldendrobineが知られ ている。	同属 <i>Criminale</i> Sw., extract: LD50 > 1 g/kg bw dendrobine: LDLo = 17 mg/kg bw (rabbit, i.v.)	<i>D. nobile</i> <i>Lindl.</i> の全 草はClass 1	A	医薬品としての使用実態があり、大量に服用する と毒性を示すアルカロイド、dendrobineを含む ため、専ら医薬品としておくことが適当である。
126	セネカ 英名 Senega snake root	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	根	① <i>Polygala senega</i> L. ② <i>P. senega</i> L., var. <i>latifolia</i> Torrey et Gray	Polygalaceae ヒメハギ科	①セネガ ②ヒロハセネガ	局方 Com E			Class 2b, 2d	A	局方収録の重要な医薬品であり、また、長期間服 用すると胃腸に炎症を起すことが知られている ため、専ら医薬品としておくべきである。
127	セキソウ科<山竹>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	根茎	<i>Cnidium officinale</i> Makino	Umbelliferae セリ科	セキソウ	局方				B	毒性は知られていないが、局方に記載される重要 な生薬であり、また多量の地方に使用されてい る。
128	セッコク科<附子>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	根	① <i>Pseudoclanium</i> <i>procarruporum</i> Dunn ② <i>Angelica decursiva</i> Franchet et Savatier	Umbelliferae セリ科	②リダケ	局外生規		①同属の <i>P. dhava</i> は LD50 = 48 mg/kg bw (mouse, i.p.)だが、" extract excluding roots"		B	毒性は知られていないが、局外生規に記載され、 漢方210処方中にも配合される重要な生薬であ る。
129	セッコク科<山竹>	ヒガンバナ、 マンジュシュウガ	根茎	<i>Niphar japonicum</i> DC.	Nymphaeaceae スイレン科	コウホネ(カワホ ネ)	局方				A	中枢麻痺作用のある deoxy-nupharidine を含む。

130	センソク<茜草>	①アカネ ②アカミノアカネ	根	センソク<茜草> 草の全草は「非医」	① <i>Rubia akane</i> Nakai ② <i>R. cordifolia</i> L.	Rubiaceae アカネ科	①アカネ ②アカミノアカネ	○ OTC薬				②Extract: LD50 > 1 g/kg bw (mouse, oral)	A	発がん性があるため食品系添加物としての使用が禁止されたセイヨウアカネ <i>R. tinctorum</i> の同属植物である。lucidin primeverosideに強い変異原性が含まれており、その他にもlucidin primeverosideが成分が多いことから、専ら医薬品とすべきである。
131	センタウリカラムシク	英名 Centaury Herba	全草		<i>Centaurea minus</i> Moench (= <i>Erythraea centaureium</i> Pers., <i>Centaureum umbellatum</i> Gilbert, <i>Centaureum erythraea</i> Raf.)	Gentianaceae リンドウ科	センタウリカラムシク	× Com E			Class 1 (C. <i>erythraea</i> Raf.)		Class 1 (C. <i>erythraea</i> Raf.)	E 日本では医薬品としての使用実態がない。 Botanical Safety HandbookでもClass 1であり、問題のある化合物は知られていない。
132	センダン<苦楝子>	クレンシ、クレンピ	果実・樹皮		① <i>Melia azadirach</i> L., ② <i>M. azadirach</i> L. var. <i>subtripinata</i> Miq., ③ <i>M. toosendan</i> Sieb. et Zucc.	Meliaceae センダン科	①トキワセンダン ②センダン ③トウセンダン	○	limonoid, meliatoxin A1, A2, B1, B2		Class 3	①bark extract: LD50 = 250 mg/kg bw (mouse, i.p.) ②extract: LD50 = 221 mg/kg bw (mouse, oral), LDLo = 20 mg/kg bw (human child, oral) meliatoxin A1, A2, B1, B2: いずれもLD50 = 6.4 mg/kg bw (pig, oral); LD50 = 16 mg/kg bw (mouse, i.p.)	A	センダンとして使用される <i>Melia toosendan</i> の抽出物が経口投与で劇薬相当の毒性を示す。本来のセンダンである <i>M. azadirach</i> 果実に含有される meliatoxinは経口投与で劇薬相当の毒性を示す。
133	センナ	①チンネベリ・センナ ②アレキサンドリヤ・センナ 英名 Senna Leaf	果実・小葉・葉柄・葉軸	センナ「非医」 葉は「非医」	① <i>Cassia angustifolia</i> Vahl ② <i>C. acutifolia</i> Delile	Leguminosae マメ科	①チンネベリ・センナ ②アレキサンドリヤ・センナ	扇方 Com E			Senna <i>alexandrina</i> P. Mill (= ①+②), <i>S. obtusifolia</i> (L.) Irwin & Barneby, (エビズクサ), <i>Senna tora</i> (L.) Roxb. (カフラクツメイ)について 葉: Class 2b, 2c; 果実: Class 2b, 2c, 2d	extract of <i>Cassia senna</i> L.: LD50 = 681 mg/kg bw (mouse, i.p.)	A	扇方収載の重要な生薬であり、また、強い泻下作用と刺激作用があるため、専ら医薬品としておくべきである。
134	センブツカ<蔞薈花>	オグルマ	花		<i>Inula britannica</i> L. var. <i>chinensis</i> Regel	Compositae キク科	オグルマ	×			Class 1 (ただし, <i>britannica</i> L.), <i>elecampne</i> f., <i>helenum</i> L.)は2b, 2c	同属で最も低いのはextract of <i>I. egypta</i> DC.: LD50 = 125 mg/kg bw (mouse, i.p.)	D	わが国における使用実態は少ない。有毒成分の含有も知られていないが、データ不足である。
135	センブリ	トウヤク	全草		<i>Swartha japonica</i> Makino	Gentianaceae リンドウ科	センブリ	扇方	モノアルベニアロカロイド: gentianine (<i>Swertha</i> spp.) (LD50 = 500 mg/kg bw, mouse, oral) しかしこれは抽出時の artifactであると言われている。			mutation dataのみ	B	OTCにセンブリ煎があるなど、わが国でよく使用される重要な生薬であるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、毒性の高い成分の含有は知られていない。

136	ソウカ<菫菜>		果実	鬼実・蕪は非 医	<i>Amomum isao-ko</i> CREVOST et LEMAIRE	Zingiberaceae ショウガ科		x 生薬として中 国で流通 CP収載	6-formyl-2-hydroxy-3,4- (3',2'-dehydroperipentidinyl) pyridine	同属植物 <i>A. aculeatum</i> Roxb. で i.p. mouse LD50 464 mg/kg	Class 1	C	含有するアルカロイドの安全性について引き続き 調べる必要がある。
137	ソウシシ<想思子>	トウアズキ	種子		<i>Abrus precatorius</i> L.	Leguminosae マメ科	トウアズキ	x	ribosome-inactivating protein (RIP) (リソンの仲間) である abrin A-Cアルカロイドとして abrine (N-Me Tryptophan) も 含む。	LD 50 i.p. mouse, 0.02mg/kg (III 種したLectin), LD 50 oral rat 2711 mg/kg (seeds)		A	猛毒なタンパク質abrinを含む。
138	ソウジシ<蒼耳子>	オナモミ 英名 Cockleburr	果実		<i>Xanthium strumarium</i> L.	Compositae キク科	オナモミ	x 生薬として中 国で流通	carboxyatractyloside LD50 dosage (13.5 mg/kg)	i.p. mouse >100 mg/kg		A	劇薬相当のcarboxyatractylosideを含む。
139	ソウジュエツ<蒼朮>	ホンハオケラ	根茎		① <i>Atractylodes lancea</i> De Candolle, ② <i>A. chinensis</i> Kiudzymi	Compositae キク科	ホンハオケラ	局方			<i>A. lancea</i> , <i>A. macrocephala</i> Class 1	B	局方に収載され、210処方中の57処方に使用され ている重要生薬である。
140	ソウジュヨウ <草龍巻>	ハマウツボ	莖		<i>Orobanchae coarulescens</i>	Orobanchaceae ハマウツボ科	ハマウツボ、 キムラタケ	x 雑薬和漢薬 記載	Monoterpenoid pyridine alkaloids (artifactor ではない?) boschniakine			E	含まれるとされるアルカロイドは、アーツイアラクトと 考えられ、それ以外の成分も、特に偽薬品ものは 報告されていない。(オニゴも同様と考えられる)
141	ソウハクヒ<桑白皮>	クワ、マクワ 英名 Mulberry Bark	根皮	葉、花、実(集 合果)は「非 医」	① <i>Morus alba</i> L., ② <i>M. bombycis</i> Koidz.	Moraceae クワ科	①マクワ ②クワ	局方	pyrrolidine alkaloid, nortropate alkaloids, polyhydroxylated alkaloids, polyhydroxylated piperidine alkaloids	i.v. mouse LD50 327 mg/kg	Class 1	B	局方生薬であり各種アルカロイドを含む。
142	ソウボク<懸木>	シナタラシキ	根、根皮、材		① <i>A. chinensis</i> ② <i>Aralia elata</i>	Araliaceae ウコギ科	①シナタラシキ ②カラノキ	②局外生現		oral mouse LD50 1171 mg/kg; i.p. mouse 59 mg/kg	<i>A. racemosa</i> はClass 2b	E	LD50値が経口で大きく、安全性が高いと考えられ る。
143	ソクダク<絞断>	センソクダク	根		(Dipsacus sp.) の根 ① <i>Dipsacus japonica</i> Miq., ② <i>Dipsacus asperoides</i> C.Y. Cheng et T.M. Ai ③ <i>Dipsacus asper</i> Wall	Dipsacaceae マツムシソウ科	①ナベナ ②トウナベナ 生薬名 ③絞断	x 和漢薬として 使用	②The root of <i>Dipsacus</i> asperoides contained venoterpene and cantleyine. (含まれるアーツイアラクト、アーツイ アラクトの可能性が高い)	<i>D. strictus</i> LD50 i.p. rat, >1g/kg; <i>D. hiermis</i> i.p. mouse, 681 mg/kg	③Class 1	E	近縁種がBotanical Safety HandbookでClass 1であ り、アルカロイドも、アーツイアラクトと考えられ、また 毒性の有る化合物も報告されていない。
144	ソテツ		種子		<i>Cycas revoluta</i> Thumb	Cycaceae ソテツ科	ソテツ (雌雄異株)	x	cycasin (ブノイド骨髄配糖 体), necocycasin A, B, E	Cycasin MeNONCH2-O-Glc LD50 oral rat 270 mg/kg, oral rabbit 30mg/kg, oral guinea pig 20 mg/kg 変異原性 DNA damage, rat oral 56 mg/kg, mouse oral 50 mg/kg 発がん性 oral rat TDLO 100 mg/kg他多数		A	有毒な骨髄配糖体Cycasinを含む。
145	ソボク<蘇木>	スオウ 英名 Sappan wood	心材		<i>Cassalpinia sappan</i> L.	Leguminosae マメ科	スオウ、スオウノキ	局方		LD50 i.p. mouse 750 mg/kg, brazilin LD50 i.p. mouse 1.5g/kg		B	局方収載予定生薬であり、210処方にも使用して いる。
146	ソリス<鼠李子>	クロウメモドキ	果実		クロウメモドキ科クロウメモ ドキ属 <i>Rhamnus</i> sp. の果実 ① <i>Rhamnus japonica</i> Mikim. ② <i>Rhamnus japonica</i> var. decipiens Makim	Rhamnaceae クロウメモドキ科	①エンクロウメモ ドキ ②クロウメモドキ (黒梅)	x	emodin i.p. mouse LD50 35mg/kg	<i>R. virigatus</i> Roxb. root i.p. LD50 375 mg/kg	<i>R. fragillia</i> 等が2b	A	劇薬であるemodin及びその類縁体を含む。他名 等もクロウメモドキと誤るとすべし。

147	ダイオウ<大黃>	ヤクオウダイオウ 英名 Chinese rhubarb	根茎	葉は「非医」	① <i>Rheum palmatum</i> L. ② <i>R. tanguticum</i> Maxi. ③ <i>R. officinale</i> Baillon ④ <i>R. coreanum</i> Nakai 又はそれらの種間雑種	Polygonaceae タデ科	①オニアザミ ②ヤマアザミ ③ノアザミ	局方 × 日本では民間薬、承認なし	physcion, emodin			①TDL0 oral rat 50 mg/kg. physcion (emodin 3-methyl ether), i.p. mouse LD50 10mg/kg. emodin i.p. mouse LD50 35mg/kg	2b, 2c, 2d	A	劇薬であるEmodin及びその環状体を含む。
148	ダイケイ<大薸>	ノアザミ	根		① <i>Crotium nipponense</i> , Koidumi ② <i>C. spicatum</i> , Matsum. ③ <i>Crotium japonicum</i> DC. に非常に近縁な種の根	Compositae キク科						<i>C. falconeri</i> LD50 i.p. mouse 681 mg/kg. <i>C. arvense</i> i.p. mouse 500 mg/kg		E	アルカロイドや向精神作用物質、毒薬劇薬指定成分等を含むという報告がなく、また日本では、医薬品としての使用実績もほとんどない。なお、各株はダイケイではなく、タイゲイとすべき。
149	ダイオウ<大腹皮>	ピンロウ 英名Betelnut	果皮 成熟果実の果皮の乾燥したもの	種子は「非医」	<i>Areca catechu</i> L. 又はその他近縁植物 <i>A. dictionii</i> Roxburgh	Palmae ヤシ(シユロ)科	ピンロウ、檳榔樹 (ヒンロウシユロ) ダイオウクビシユロ	局外生現	arecoline (up to 0.2%), Localization of alkaloids in the fruit and seed of <i>Areca catechu</i> : The alkaloids are found in both the external and internal parts of the pericarp of the nut.			nutのチーグ、i.p. mouse LD50 681 mg/kg はあるが、果皮はない。		A	アセチルコリンレセプターのアゴニストである arecolineが入っている。また局外生現に収録され、210処方でも使用される重要な生薬である。
150	タクシャ<決明子>	サジオモダカ	塊茎		<i>Alisma orientale</i> Juzepczak	Alismataceae オモダカ科	サジオモダカ	局方				<i>Alisma plantago</i> L. i.p. rat LD50 >1g/kg	Class 2d	B	局方に収録され、210処方中で20処方に使用されている重要な生薬である。
151	ダミアナ		葉		<i>Tourneria diffusa</i> Willd.	Tumerales ツルネズ科		× 熟帯アメリカ民間薬				同属植物 <i>T. ulmifolia</i> Linn. var. <i>angustifolia</i> Wild のエキスを LD50 464 mg/kg (mouse, ip)	Class 1	C	我が国において使用実績はなく、ネット上では幻覚性を有するとの報告もあり、さらに調査が必要と考えられる。
152	タユキ		根		<i>Cayaponia taylori</i> (Vell.)	Cucurbitaceae ウリ科		× アマゾン民間薬						A	我が国において使用実績はなく、アルカロイド等は含有していないが、ブラジルでは峻下剤として使用されていることから安全性に十分な配慮が必要であるため専ら医薬品と考えられる。
153	クアロンビ <クワ根皮>	カラノキ	根皮、樹皮	葉・芽は「非医」	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seem.	Araliaceae ウラボシ科	カラノキ	局外生現				total aralosides: LD50 1,171 mg/kg (mouse oral); LD50 38.7 mg/kg (mouse ip)	Class 2b (<i>A. californica</i> , <i>A. m. dicanalis</i> , <i>A. race</i> , <i>A. mosca</i>)	E	含有成分から食薬区分の見直し対象に成り得ると考えられる。
154	タンジン<丹参>		根	葉は「非医」	<i>Salvia miltiorrhiza</i> Bunge	Lamiaceae シソ科	タンジン	〇一般薬 中国薬典	2-hydroxy-3-(3,4-dihydroxyphenyl)propanamide, salvianmiltamide			aqueous extract: TDLo 350 g/kg (rat oral)	Class 1	B	アルカロイド等を含有しており、また中薬処方にも多く配合され、安全性に充分な配慮が必要である。
155	チカヅ<竹茹>		幹の内層		① <i>Bambusa tuldoidea</i> Munro ② <i>Phyllostachys nigra</i> Munro var. <i>henonis</i> Stapf ex Rendle ③ <i>Phyllostachys bambusoides</i> Sieb. et Zucc.	Gramineae イネ科	②ハチク ③マダケ	局外生現						B	局外生現収載生薬で漢方処方にも配合されている。

156	チクセツニンジン <竹節人參>	トチバニンジン	根茎			<i>Panax japonicus</i> C. A. Meyer	Araliaceae ウコギ科	トチバニンジン	局方				chikusetsusaponin V: LD50 650mg/kg (mouse, ip), LD50 278mg/kg (mouse, iv) chikusetsusaponin IV: LD50 548mg/kg (mouse ip), LD50 343mg/kg (mouse, iv)	B	局方収載生薬で日本産の重要生薬である。
157	チモ<知母>	ハナズグ	根茎			<i>Anemarrhena asphodeloides</i> Bunge	Liliaceae ユリ科	ハナズグ	局方				rhizoma water extract, methanol fraction: TDL ₀ 90 mg/kg (mouse oral)	B	局方収載で210処方中13処方に配合される重要生薬である。
158	チユ<地榆>	ワレモコウ	根・根茎			<i>Sanguisorba officinalis</i> L.	Rosaceae バラ科	ワレモコウ、 ウマズイカ、 ダンゴバチ	○一般薬				Garden burnt: TDL ₀ 2,744 g/kg (mouse oral)	E	医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも薬薬区分の孔直し対象と成り得ると考えられる。
159	チヨウセンアサガオ 英名 Angel's trumpet	チヨウセンアサガオ	種子、葉、花			<i>Datura metel</i> L., <i>D. arborea</i> L., <i>D. stramonium</i> L., <i>D. stramonium</i> L. var. <i>chalybea</i> Koch	Solanaceae ナス科	チヨウセンアサガオ チヨウセンアサガオ オ、 ニダチチヨウセン アサガオ、 シロバナチヨウセン アサガオ、 ヨウシヨウチヨウセン アサガオ	○医薬品原料 中国薬典		scopolamine, hyoscyamine, atropine, apatropine, scopolamine, scopolin, scopolone	A	毒薬指定のアトロピンが配合されている。		
160	チヨウトウコウ <釣藤鈎>	カギカズラ、 トウカギカズラ	とげ			① <i>Uncaria rhynchophylla</i> Miquel ② <i>Uncaria sinensis</i> (Oliv.) Havil. ③ <i>Uncaria macrophylla</i> Wall.	Rubiaceae アカネ科	①カギカズラ ②トウカギカズラ、 シロカギカズラ、 ③クンカリア、マク ロソウ	局方		①rhynchophylline, liracutine, dihydrocorynantheine, rhynchophylline, ②rhynchophylline, nutraphyllin acid, isomitraphyllin acid, isorhynchophyllin acid ③corynoxine A, B	A	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、また劇薬担当に四散するアフルカロイド成分も含有しているため、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。		
161	チヨレイ<猪苓>	チヨレイマイタケ	菌核			<i>Polyporus umbellatus</i> Fries (= <i>Grifola umbellata</i> Pilat)	Polyporaceae サルノコシカケ科	チヨレイマイタケ	局方				Class 1	局方収載生薬で多くの漢方処方にも配合されており、重要生薬である。	
162	チナンシヨウ <天南星>	塊茎	塊茎			① <i>Arisaema heterophyllum</i> Blume, ② <i>A. erubescens</i> Schott ③ <i>A. pedatifida</i> Schott ④ <i>A. amurensis</i> Maximowicz	Araceae サトイモ科	①マイズルテンナン シヨウ ②チヨウナンシヨウ ③チヨウナンシヨウ シヨウ	局外生規			①エキス: LD50 159g/kg (mouse oral)	A	植物を誤食すると中毒症状を起し、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。	
163	チンマ<茨麻>	オニノヤガラ	塊茎			<i>Gastrodia elata</i> Blume	Orchidaceae ラン科	オニノヤガラ、 オスビトノアシ	局方			エキス: LD50 3.98 g/kg (mouse iv)	B	アルカロイド等を含むし、局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。	
164	チンモンドウ <天門冬>	クサスギカズラ	根			<i>Asparagus cochinchinensis</i> Merrill	Liliaceae ユリ科	クサスギカズラ	局方				Class 1	局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。	

165	トウガシ<<冬瓜子>>	トウガ	種子	果実は「非医」	① <i>Berlinia casearia</i> Savi. ② <i>B. casearia</i> Savi forma <i>emarginata</i> K. Kimura et Sugiyama	Cucurbitaceae ウリ科	①トウガシ、 トウガ、カモウリ	局外生煎、 局方15局収 載予定	adenine, trigonelline		エキス; LD50 147mg/kg (mouse ip), trigonelline: LD50 500mg/kg (mouse ori)	Class 1	B	アルカロイド等を含むし、局外生煎収載、局方収載予定生薬で漢方処方にも配合されている。
166	トウキ<<当帰>>	オニノダケ、 カブトクキ	根		① <i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa ② <i>A. acutiloba</i> Kitagawa var. <i>oxypanae</i> Hikino ③ <i>A. sinensis</i> (Oliv.) Diels ④ <i>A. gigas</i> Nakai	Umbelliferae セリ科	①トウキ ②カブトクキ ③オニノダケ	局方①②の CP収載		③Root: TDLo = 1.4 g/kg (rat, oral), Root extract: LD50 = 100 g/kg (mouse, i.v.)	③Class 2b	A	局方に収載される重慶生薬である他、子宮に対する収縮作用が報告されており、使用には注意が必要である。また、カナダでは医薬品以外への使用が禁止されている。	
167	トウジン<<党参>>	ヒカガシノズルニンジン	根		① <i>Codonopsis pilosula</i> (Franch.) Nannf. (= <i>Campananotia pilosula</i> Franch.) ② <i>C. langshen</i> Oliv.	Campanulaceae キキョウ科	①ヒカガシノズルニンジン ②トウジン	× 一般薬、 CP収載	①β-carboline alkaloidの perlyrineを含む。含量 0.17mg/kg	①Polysaccharide of <i>C. pilosula</i> (Franch.) Nannf.: LDLo = 90 g/kg (mouse, oral); LD50 = 20.89 g/kg (mouse, i.v.). Extract of <i>C. pilosula</i> (Franch.) Nannf.: LD50 = 1.7 g/kg (mouse, i.v.)	Class 1	C	毒性が不明のアルカロイドが含まれるので、調査が必要である。	
168	トウジンノク<<燈心草>>		全草		<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decipiens</i> Buchem. (= <i>J. decipiens</i> Nakai)	Juncaceae イタドリ科	イ、イグサ	○ CP収載				C	フェニトロレン誘導体が含まれる。フェニトロレン誘導体には変異原性が知られているものがあるため、調査が必要である。	
169	トウツルキンバイ	アンゼリナ	全草		<i>Potentilla anserina</i> L. = <i>Argentina anserina</i> (L.) Rydb.	Rosaceae バラ科	エンゾルキンバイ イ、 ヨウシキョウキンバイ	○ Com E					A	活性成分は不明であるが、子宮の緊張を強め、収縮期間をせばめる作用が知られており、安全性に配慮が必要である。また、ドイツで医薬品として使用されている。なお、名称は再考が必要である。
170	トウニン<<桃仁>>		種子	葉、花は「非医」	① <i>Prunus persica</i> Batsch. (= <i>P. vulgaris</i> Mill.) ② <i>P. persica</i> Batsch. var. <i>dauidiana</i> Maximowicz (= <i>P. dauidiana</i> (Carr.) Franch)	Rosaceae バラ科	①モモ ②ノモモ	局方 CP収載	酢酸配糖体 amygdalin (LD50 = 405 mg/kg (rat, oral))、 prunasin amygdalinはemulsinや腸内のβ-glucosidaseにより水解して benzaldehyde, HCN, glucose になる。 KCNの毒性はTDLo = 14mg/kg, LDLo = 170mg (成人) である。	Class 2b, 3	A	青酸配糖体のamygdalinを含み、Botanical Safety HandbookでClass 2b, 3と評価されているため、安全性に配慮が必要である。		
171	トウリヨウノウ<<冬菴草>>		全草		<i>Rabdosia rubescens</i> (= <i>Isodon rubescens</i>)	Labiatae シソ科		×	ジテルペンのoridonin (=rubesensin A, LD50 = 35 mg/kg (mouse, i.p.)), ponicidin (=rubesensin B, LD50 = 53.8 mg/kg (mouse, i.p.))			A	血管新生抑制作用など顕著な作用を示し、また、副薬相当の毒性を示すジテルペンを含む。	

172	トクカツ<強活>		根茎	軟化茎は「非 医」				①ウド ②シシウド	①Araliaceae ウコギ科 ②Umbelliferae セリ科	①ウド ②シシウド	①局外生規 の強活 ②局外生規 の産強活 CP収載								①同属の <i>A. californi- ca</i> , <i>A. nudica- entosa</i> (アメリ カのカン シヨウコウ) ②Class 2d 同属 <i>A. delavayana</i> (Fischer ex Hoffm.) Franch. et Sav. (ビヤク シ); Class I	①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。
173	トコソク<吐根>		根茎					トコソク	Rubiaceae アカネ科	トコソク	局方	emetine, cephaeline, psychotrine, ipocamine, ipocoside, emetamine, tubulosine	emetine (LD50 = 12 mg/kg (rat and mouse, i.p.)	Class 2b, 2d	A	①A ②E	①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。			
174	トコソク<強活>		種子					①ハマネアシカ ズラ ②アマガオシ ③ネナシカズラ	Convolvulaceae トルコギョウ科	①ハマネアシカ ズラ ②アマガオシ ③ネナシカズラ	①③中薬大 辞典 CPには収載	①インドールアルカロイドの escutamine	②Acidic polysaccharide from seeds. TDLo = 100 g/kg (mouse, i.p.)	Class I	A		①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。			
175	トコソク<吐根>		樹皮	果実・葉・葉 柄・木部は 「非医」				トコソク	Eucommiaceae トコソク科	トコソク	局方 (日高14第一 追補、CP収 載)	Hot water extract from leaf: TDLo = 37.8 g/kg (rat, oral) Extract: TDLo = 36 g/kg (rat, oral)	Class I	B		①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。				
176	トコソク<土木香>		根					オオグルマ	Compositae =Asteraceae キク科	オオグルマ	Com E 和漢薬	<i>L. viscosa</i> L. leaves, MeOH ext. rat LD50 2958 mg/kg (i.p.); <i>L. racemosa</i> , root ext. rat LD50 250 mg/kg	Class 2b, 2c	A		①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。				
177	トラガント		樹脂					オオグルマ 英名 elecampane, scabwort, alant, horseheel, yellow starwort	Leguminosae マメ科	オオグルマ	局方	<i>Astragalus miser</i> varietes oblongifolius, extract; chicken oral LD50 9.7mg/kg; <i>Astragalus</i> <i>membranaceus</i> , root extract (<i>Astragalosides</i>); oral mouse TDLo 20mg/kg; <i>Astragalus</i> <i>discusis</i> Fischer, extract, ip mouse LD50 681 mg/kg; <i>Astragalus canadensis</i> Royle, extract, ip mouse LD50 1g/kg 等 と様々なデータがある (<i>Astragalus</i> で188頁) Tragaanthでは、1hit LD50 oral rat 10.02g/kg, oral mouse 10g/kg, oral rabbit 7.2g/kg, oral hamster 8.8g/kg.	Class I	E	①食品として不適当なほど毒性が高いわけはないが、局外生規に収載された重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含まれるという報告はない。また、局外生規に収載されるものの、現在はこのわが国では唐薬品は使用されていないので、シシウドとして見直しを推奨しなされる。					

178	トリカブト根	トリカブト、プシ、ヤマトカブト 英名 Aconite	樹脂	カンヨウアジ <i>A. saponose</i> は除く	Aconium 属 ① <i>A. carmichaeli</i> Debeaux ② <i>A. japonicum</i> Thunberg	Ranunculaceae キンポウゲ科	生薬名 附子 ハナトリカブト ①アジ ②オウトリカブト	局方 14局第二道 補収載予定 Com E	aconitine, mesaconitine, isoaconitine, pseudoaconitine 等 アルカロイドを0.4-1%含む マイナー成分として、 hydnamine (demethylcochlorine), corymbine chloride, aconitineは、加水分解される aconineとなり毒性は1/50- 1/200となる	domestine (アポルフィン系 イソキノリンアルカロイド)、 ①白南天anemine (serotonin antagonist) 0.5% 含有 glucosides of p- hydroxymandelonitrile,	LD50 oral mouse 26.6 g/kg (stem extract) domestine: i.v. rat TDLO 0.3 mg/kg m-OH mandemonitrile oral mouse LD50 25.4mg/kg 27.5mg/kg, human p-Glucosyloxymandelonitrile /Nandinin (Cyanogenic glycoside)	Aconite (drug) oral human A LDL0 0.029mg/kg. マウス経口 LD50: 80ug/kg, マウス経口 LD50: 1mg/kg, 48.6 mg/kg, subcutaneous mouse 9.1 mg/kg	①Class 3	A	毒薬側成分を含み、また医薬品原料としても、重 要である。サンヨウアジ (<i>A. saponose</i>) にも同様の アルカロイドが含まれるので、厳くべきではない。
179	ナンテンシジツ <蘭天葵>	①シロミナンテン② ナンテン 英名 heavenly bamboo, nandina	果実		① <i>Nandina domestica</i> Thunberg, forma leucocarpa Makino ② <i>N. domestica</i> Thunberg	Berberidaceae メギ科	①シロミナンテン (シロナンテン) ②ナンテン	局外生薬	domestine 知覚神経、 運動神経を 麻痺させ、中 枢に對し麻 酔的な作用	LD50 oral mouse 26.6 g/kg (stem extract) domestine: i.v. rat TDLO 0.3 mg/kg m-OH mandemonitrile oral mouse LD50 25.4mg/kg 27.5mg/kg, human p-Glucosyloxymandelonitrile /Nandinin (Cyanogenic glycoside)	A	中樞作用を有するアルカロイドdomestineや β-glucosidaseの阻害なしに腎臓を発生する青酸 配糖体を含む。			
180	ナンバンシヤ<南蛮毛>	トウモロコシ 英名 corn silk	花柱、柱頭	種子油、澱粉 は非医	<i>Zea mays</i> L.	Gramineae イネ科	x 民間薬として は使用			oral rat TDLO 6.3g/kg (silk styles of corn extract)	Class 1 (花柱 Stigma)	E	経口のTDLO値が大きく、また期間となる成分も知 られていない。なお、他名等にナンバンシヤを入 れる必要がある。		
181	ニガキ<苦木>	英名 Picrasma Wood	木部(樹皮を除く)		<i>Picrasma quasasioides</i> Bennet	Sinacrobaceae ニガキ科	ニガキ	局方	アルカロイド: niginone, methylniginone, β-carboline誘導体	<i>P. javanicum</i> BL. mouse i.p. LD50 >1g/kg	P. excelbar Class2b	A	アルカロイドを含有しており、また局方収載生薬で 安全性に配慮が必要である。		
182	ニクシユヨウ <肉莖藟>	①ホンオニク ②オニク(キムラタ ケ)	肉質莖	カンカニク ジュヨウは非 医	① <i>Cistanche salsa</i> , Benth et Hook. f. ② <i>Baccharis rossica</i> B. Fedtsch. et Floron= <i>B. glabra</i> C.A.Meyer	Orobanchaceae ハマウツボ科	①ホンオニク ②オニク(キムラタ ケ)	Com E	Monoterpeneoid pyridine alkaloids (artifactでは?): boschniakine			E	含まれるとされるアルカロイドは、アーチアアクトと 考えられ、それ以外の成分も、特に危険なもの 報告されていない。(ノウシユヨウも同様と考えられ る)		
183	ニチニチソウ	英名 Madagascar periwinkle	全草		<i>Catharanthus roseus</i> (L.) G. Don <i>Pinca rosea</i> L. (旧名)	Apocynaceae キョウチクトウ科	ニチニチソウ	局方	alstonine, reserpine, vinblastine, vincristine, yohimbine and yohimbinoid and strychnoid base (antineoplastic neurotoxic alkaloids) インドールアルカロイド	alstonine: oral mouse LD7 >3g/kg他 reproductive effects oral mouse (7-12d preg.) TDLO 120 mg/kg Vincristine sulfate, マウス経口 LD50: 1mg/kg, マウス経口 LD50: 270ug/kg, マウス皮下 LD50: 270ug/kg, マウス静注 LD50: 100ug/kg	Class 3	A	毒薬相当の要指添成分を含む。		
184	ニクシユヨウ<乳膏>	英名 frankincense, olibanum	全木		ウルシ科ニクシユヨウ属 <i>Platanus</i> sp.の樹脂 ① <i>P. lentiscus</i> L. ② <i>P. Khinjik</i> Stocks. カンラン科 <i>Boswellia</i> sp.の 樹脂 ③ <i>Boswellia carterii</i> Bidw.	Anacardiaceae ウルシ科 ③Burseraceae カンラン科	カンニクシユヨウ ジュ ①ニクシユヨウ 漢乳膏 ②カンニクシユヨウ	x		③i.p. rata LD50 85 mg/kg	Class 1	A	既存添加物の基原と同じく、 <i>Boswellia</i> 属のものを ニクシユヨウとする。樹脂相当の毒性データがあ り、安全性に配慮が必要である。		

185	ニョチイ		種子・果実	薬は非医	モクセイ科ネズミモチ属 <i>Ligustrum</i> sp. の果実 ① <i>Ligustrum japonicum</i> Thunb. ② <i>L. lucidum</i> Aiton	Oleaceae モクセイ科	①ネズミモチ ②トウネズミモチ 中国産	x 中薬大辞典			②LD50 > 1g/kg i.p. mouse	②Class1	E	LD50 値が大きく、また安全性に問題ある成分も含まれているという報告はないが、積極的に食品と判断する材料もない。
186	ハイクナイウク属	種子・果実 全草			① <i>Veratrum grandiflorum</i> Loesen, F. (= <i>V. album</i> L. var. <i>grandiflorum</i> Maxim) ② <i>V. album</i> L. ③ <i>V. maackii</i> Regel var. <i>japonicum</i> (Baker) T. Shimizu ④ <i>V. nigrum</i> L. ⑤ <i>V. maackii</i> Regel var. <i>maackii</i> (Regal) Maxim. ⑥ <i>V. stamineum</i> Maxim.	Liliaceae ユリ科	①ハイクナイウク ②トウネズミモチ ③アロハシユロウウ ④ホノシユロウウ ⑤コバイケイ	x 民間薬			①, ②, ④, ⑤ veratramine LD50 4.5 mg/kg (mouse sc) ② jervine LD50 29 mg/kg (mouse sc), 9.3 mg/kg (mouse iv) ④ root extract: TDLo 30µg/kg (rat intravenous), germidine: LD50 10 mg/kg (mouse ip) ⑤ extract: LD50 290 · g/kg (mouse intravenous), root extract: LD50 140 · g/kg (mouse intravenous)	class 3 (同属植物 <i>V. viride</i> Aiton = American hellebore)	A	毒性の強いステロイド系アルカロイド成分を含有しており安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
187	ハインシヨウ<散播>	根			<i>Pairaria scabrosifolia</i> Fisch.	Valerianaceae オミナエシ科	オミナエシ	x 民間薬			Complex injection: LD50 213g /kg (mouse ip), 123g/kg (mouse iv)	E	アルカロイド等も含有せず、問題となるような毒性成分も存在しないことから、専ら医薬品と見出し対象となり得ると考えられる。	
188	ハクモ<貝母>	鱗茎			<i>Fritillaria verticillata</i> Willdenow var. <i>thunbergii</i> Baker	Liliaceae ユリ科	アミガサユリ	14局第一増補記載			同属植物 <i>F. assuriensis</i> : LD50 14.8 mg/kg (mouse, ip), 84.2 mg/kg (mouse, iv)	class 2b <i>F. cirrhosa</i> <i>F. thunbergii</i>	A	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、アルカロイド成分も含有し、また同属植物のエキスを脚薬相当の毒性を有していることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
189	ハクシジシ<柏子仁>	種子			① <i>Biota orientalis</i> (L.) Endl. (= <i>Thuja orientalis</i> L.) ② <i>Platycladus orientalis</i> (L.) Franco.	Cupressaceae ヒノキ科	コナゲシワ	輸入			D-(+)-fenchone: LD50 6150 mg/kg (rat oral), Thuja leaf oil: LD50 830 mg/kg (rat, po)	Class 1	C	種子についての成分及び毒性データが不足しており、引き続き調査が必要である。
190	ハクセンシ<白鮮皮>	根皮			① <i>Dicranum dasycarpus</i> Turcz. ② <i>D. albus</i> L. ③ <i>Pulsatilla chinensis</i> (Bge.) Regel ④ <i>P. carnea</i> B ercht et Presl ⑤ <i>P. koraiana</i> Nak. ⑥ <i>P. dahurica</i> (Fisch.) ⑦ <i>P. turczaninowii</i> Kojlov et Seg. ⑧ <i>P. amibignia</i> Turcz et Pritz	Rutaceae ミカン科	①ハクセンシ ②アロハシユロウウ ③アロハシユロウウ	輸入、中国薬典記載			dictamine, γ-fagarine: mutation in <i>Salmonella typhimurium</i> 1 µg/plate	A	A	変異原性並びに肺他臓作用等、生理活性の強いフラキリノールアルカロイドを多量に含有しているため、安全性に充分な配慮が必要であり専ら医薬品とすることが望ましい。
191	ハクワオウ <白頭翁>	葉・莖			① <i>Pulsatilla chinensis</i> (Bge.) Regel ② <i>P. carnea</i> B ercht et Presl ③ <i>P. koraiana</i> Nak. ④ <i>P. dahurica</i> (Fisch.) ⑤ <i>P. turczaninowii</i> Kojlov et Seg. ⑥ <i>P. amibignia</i> Turcz et Pritz	Ranunculaceae キンポウゲ科	①ヒロハオキナグサ ②オキナグサ ③アロハシユロウウ	x 中国薬典記載			同属植物 <i>P. alpina</i> subsp. <i>apifolia</i> (Scop.) Nyman, aqueous extract LD50 1.92 g/kg (mouse, ip)	A	A	側葉相当の成分 (podophylotoxin) 類縁化合物を含有しており、専ら医薬品と考えられる。
192	ハクトウスギ<白豆杉>	樹皮・葉		心材は「非 医」	<i>Pseudotsuga cheni</i>	Taxodiaceae スギ科	ハクトウスギ	x			paclitaxel: LD50 128 mg/kg (mouse ip), 12 mg/kg (mouse iv)	A	A	paclitaxelを含有するとの報告があり、専ら医薬品と考えられる。

193	ハクモクセン <薬用茶>	コヤブラン、 シラビソ、 ヤブラン、 リュウノヒゲ	根の膨大部		①Ophiopogon japonicus Ker-Gawler ②Liriope platyphylla Wang. et Tang. ③L. spicata Lour.	Liliaceae ユリ科	①シヤブソ、 リュウノヒゲ ②ヤブラン ③コヤブソ	①局方				root extract: LD50 20.6 g/kg (mouse, ip)	Class 1	B	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、 要生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。
194	ハゲキテン<巴載文>		根		Morinda officinalis How.	Rubiaceae アガネ科	モリンダ・オフライン ナリス	○ 一般薬				同属植物 <i>M. lucida</i> Benth, extract LD50 > 500 mg/kg (rat, ip) <i>M. citrifolia</i> L., extract LD50 7500 mg/kg (mouse, ip) <i>M. umbellata</i> L., extract LD50 > 1 g/kg (mouse, ip)	Class 1	A	癌ガン性が確認された西洋アガネ中に存在する 強い変異原性物質であるアノラキニン類を多量 含有しており安全性に十分な配慮が必要であり、 専ら医薬品とすべきである。
195	ハンシロココロ麻	ハンシロココロ、ロート 根	根		①Scopolia japonica Maxim. ②S. carnialita Jacquin, ③S. parviflora Nakai	Solanaceae ナス科	①ハンシロココロ	①-③局方 ②Com E	scopolamine, hyoscyamine, atropine, sparteoprine, scopolamine, scopine, scopolite		エキス: LD50 1275 mg/kg (mouse, po), atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, so); LD50 56 mg/kg (mouse, iv) atropine hydrochloride: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv) (-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)	②Class 3	A	毒薬相当のアルカロイド (hyoscyamine) が含有さ れており専ら医薬品と考えられる。	
196	ハズ		種子		<i>Croton tiglium</i> L.	Euphorbiaceae トウダイグサ科	ハズ	*	葉ガンプロモーター作用を 持つホルボールエステル類 Phorbol and its esters: phorbol, phorbol 12-tiglate 13-decanoate, 12- tetradecanoylphorbol 13- acetate (phorbol ester A1), phorbol ester A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7		Croton oil: LD50 = 60 mg/kg (frog, i.p.), LD70 = 3.74 mg/kg (mouse, subcutaneous)	A	A	毒薬相当の毒性があり、葉ガンプロモーター作用 を持つホルボールエステルを含む。	
197	ハマメリス 英名 witch hazel	ハマメリス	葉		<i>Hamamelis virginiana</i> L.	Hamamelidaceae マンサク科	アメリカマンサク	Com E				Leaf extract: LD50 4510 mg/kg (mouse oral)	Class 1	E	アルカロイド等の問題となる成分は含有しておら ず、またB5H, Com Eにおいても安全性に問題と なるような記載がないことから食薬区分の見直し 対象となり得ると考えられる。
198	ハリエラ属 ハレイラ根	ハリエラ、 ハレイラ根	樹皮-根		<i>Chondrodendron</i> spp. または <i>Chondrodendron</i> spp.	Menispermaceae ツツジ科		局方 医薬品の原 料	bisbenzylisoquinoline alkaloids: (+)-tubocurarine, (+)-bebeerine, isochondrodendrine		Extract of <i>Chondrodendron</i> <i>limacifolium</i> : LD50 = 2 g/kg (mouse, subcutaneous)	A	A	毒薬であり指征医薬品である(+)-tubocurarineを含 むため、使用には注意を要する。なお、名称ハリエ ラ属にはほとんど用いられないので、コンドロン 属と混同しないこと、コンドロン属に属するもの が選定と恐われる。	
199	ハルマラ		種子		<i>Pegannum harmala</i> L.	Zygophyllaceae ハマビシ科		*	peganine, vasicione, deoxypeganine, deoxyvasicinone	indole alkaloids: harmaline (hallucinogenic), harmine (hallucinogenic), vasicinone (hallucinogenic at high doses), tetrahydroharmine (hallucinogenic)	Seed extract: LD50 = 450 mg/kg (mouse, route unreported); Extract: LD50 > 500 mg/kg (mouse, i.p.)	A	A	向精神薬の類似化合物であるハルマリンを含む。	